

第18回 大平・後関遺跡 (福島市佐原)

大平・後関遺跡は、佐原小学校から北東に約1km、鍛冶屋川の北側に位置し、南西に安達太良山系を望む丘に広がる遺跡です。遺跡は広範囲に及び、縄文時代中期から後期、晩期そして弥生時代へと、徐々に低地に移行しながら断続的に集落が営まれたことがわかっています。

弥生時代の遺構としては「再葬墓」が見つかっており、沢山の壺型の弥生土器がまとまって埋められていました。再葬墓とは遺体を一度埋葬し、後にその骨だけを集め壺に納めて埋葬しなおすという葬送にかかわる儀礼で、とくに北関東から東北南部にかけては、複数の壺を一つの穴にまとめて納めるという形をとります。

弥生時代に入って、北九州に伝わった米作りはいち早く東北地方北部にも伝わりましたが、米作りを放棄したところもあり、東北地方は縄文時代的な文化が色濃く残りました。この再葬墓も、幼児の遺体を土器に納めて埋葬する縄文時代の「埋甕」の儀礼に連なるものと考えられます。(茂)



割れた壺の破片が散乱している状況 (再葬墓)



再葬墓に使われていた壺 (弥生土器)

じょーもぴあ・遺跡の案内人新規会員募集

じょーもぴあ・遺跡の案内人はじょーもぴあ宮畑で案内ガイドを中心に活動しているボランティア団体です。興味のある方はぜひ、活動を見学においでください。みんなで楽しく活動してみませんか？



**応募資格** ①ボランティアの趣旨を理解し、研修や会議、現地での活動に参加可能な18歳以上の方 ②歴史が好きで、福島のよさをPRできる方

**応募方法** 平成29年6月30日(金)まで(当日必着)に、じょーもぴあ宮畑、文化課、各支所、学習センターに配布の申込書に必要事項を記入の上、文化課かじょーもぴあ宮畑へ持参、FAX、郵送により提出。

**会費** 1,000円  
詳しくは市政だより5月号あるいは支所・学習センターに設置のチラシをご覧ください。

問い合わせ先 じょーもぴあ宮畑 (電話 024-573-0015)

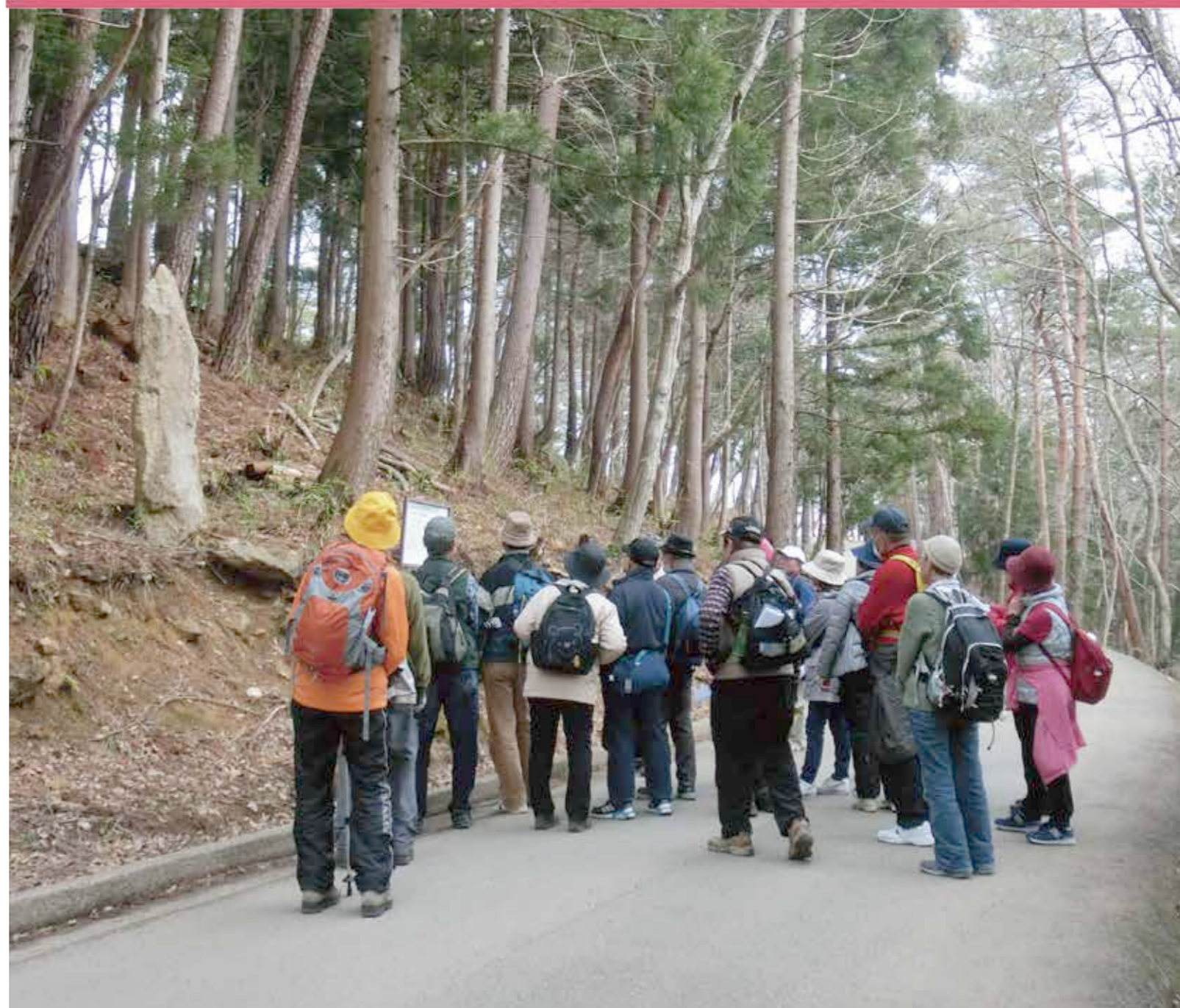
編集後記

じょーもぴあ宮畑だよりは、今年度から春・夏・秋・冬の年4回発行することになりました。特集では事業・活動の様子などを紹介、シリーズでは常設・企画展示案内、福島市の遺跡～弥生時代編～、新しい企画のコラム「縄文の小径」を連載いたします。

紙面一新、より親しみやすい情報紙としてご愛読いただきますよう、編集委員一同努力してまいります。(紀子)

じょーもぴあ宮畑だより  
2017 春号  
vol. 21

特集 : 平成29年度じょーもぴあ宮畑の事業計画… P 2  
: 今年度のじょーもぴあ・遺跡の案内人… P 2  
連載 : 展示案内 ⑤… P 3  
: コラム 縄文の小径 第1回… P 3  
: 福島市の遺跡 第18回… P 4



フィールドワーク信夫山の史跡めぐりで甘粕の碑の説明を聞く参加者 (2017年3月29日)





# 平成29年度のじょーもぴあ宮畑の事業計画

今年度のじょーもぴあ宮畑は、皆さんに喜んでいただけるよう、昨年度以上に充実した事業を計画しています。まず、メイン行事となるじょーもぴあ宮畑夏まつり・秋まつりでは、勾玉づくり体験に代わる新しい試みとして、小さなお子さんから年配の方まで楽しめるスタンプラリー形式のイベントを準備しています。ご期待ください！

また、体験学習施設の企画展示室を利用した企画展は3回の実施を予定しています。現在実施している第1回企画展「縄文土器のデザイン」の次は、第2回企画展として縄文時代晩期の遺跡である飯坂町東湯野の<sup>かみおか</sup>上岡遺跡をテーマにした展示を、第3回企画展は同じ飯坂町の<sup>たて</sup>館の山と<sup>おおとりじょう</sup>大鳥城跡にスポットを当てた古代から近世までを視野に入れた展示を予定しています。

また、毎月実施している季節の行事や、週末や夏休み・冬休み・春休みに実施している縄文体験・縄文ものづくり体験も、グレードアップしながら引き続き実施しますので、よろしくお願ひいたします。

5月	宮畑講座 縄文人体験会	
6月	土偶づくり・フィールドワーク・縄文人体験会 エントランスコンサート	
7月	夏まつり・自然観察会	
8月	アートボックス作り・エコバッグ作り・宮畑講座	
9月	秋まつり・オープンカレッジ	
10月	うさぎの土笛づくり・縄文人体験会・絞り染め体験 フィールドワーク・オープンカレッジ	
11月	フリーマーケット・縄文人体験会・宮畑講座・オープンカレッジ 縄文タペストリーづくり、縄文リースづくり	
12月	キャンドルシェード作り・干支のスタンプづくり	
1月	凧揚げ・宮畑講座・鬼のお面づくり	
2月	縄文ポシェットづくり・ひな人形づくり	
3月	フィールドワーク	

※事業は現時点での予定です。各事業あるいは各月の実施予定は市政日より、月刊予定のチラシやホームページなどでご確認ください。

## 今年度のじょーもぴあ・遺跡の案内人の活動

じょーもぴあ・遺跡の案内人は、史跡公園「じょーもぴあ宮畑」を保護し、これからの世代に残していくための支援活動やその特性を生かした活用事業を行っているボランティア組織です。毎日じょーもぴあ宮畑で案内ガイドや体験学習のサポートを行っています。

今年度は昨年度に引き続き「県都ふくしま人のためのやさしい地元学」と銘打って3回のオープンカレッジ、3回のフィールドワークを予定しております。

オープンカレッジは縄文時代に限らず、広く歴史に材をとったテーマで、外部講師をお招きしての実施となります。

フィールドワークは宮畑遺跡を中心とした東部地区の史跡、和台遺跡を中心とした飯野地区の史跡めぐり、信夫山の史跡めぐりの3回を予定しております。市政日より等に募集の告知が出ますので、ぜひご参加ください。



じょーもぴあ・遺跡の案内人は、来園者の案内ガイドや、火おこし体験・弓矢体験などの体験サポートを積極的に行っています。じょーもぴあ宮畑で黄色いユニフォームを見かけたら、気軽にお声がけください。

## 展示案内 ⑤

テーマ展示室「90cmの柱から見える縄文社会」の奥側は、掘立柱建物の建築にかかわる展示です。パネルには、力を合わせて巨大な木柱を立てる場面や棟上げの場面などが描かれ、掘立柱建物の建築の手順が解説されています。

1/20サイズの掘立柱建物の模型も展示されています。掘立柱建物を復元する前に参考のために製作されたもので、模型で立体的に復元することで、柱の組み合わせ方や全体のイメージを具体的に考察することができます。

また、壁には発掘調査で発見された柱穴の断面の標本が飾られています。2mの深さに掘られた巨大な柱穴は大迫力ですので、ぜひ見に来てください！



## 連載コラム 縄文の小径

### 第一回 縄文人は何者なのか？

#### アフリカで誕生

生物は進化する。不思議なことにもその場面を見たことのある人は一人もいないが、誰でも知っていることだ。私たちの祖先とされる縄文人も種の壁を乗り越えて進化を遂げてきた。進化により創造力豊かな知能と精神力を身につけたこの人類は、いつ種の壁を破り精神的な豊かさや高度な知能を獲得したのか、そして、いつどこからやって来たのだろうか？

地球が太陽系の惑星として誕生してから46億年。その地球上に600万年前、ある一頭の類人猿からチンパンジーの祖先となる娘と、私たちの祖先となる娘が誕生した。そして、その猿人のうち250万年前東アフリカで進化した唯一、直立二足歩行をはじめた人類は、猿人、原人、旧人、新人（ホモ・サピエンス）と進化を続けてきたとされている。

私たちの祖先サピエンスは、20万年前東アフリカ大陸の一隅でほそぼそと暮らしながら進化をとげ、アフリカの旧人に急速に取ってかわった。7万年前にアフリカ半島に拡がり、そこからユーラシア大陸に進出し世界に散らばったと学者の意見は一致している。

現在では「出アフリカ」として知られている7万年前のアラビア半島への進出時、ユーラシア大陸の大半にはすでに他の人類が定住していた。そのため北への道を閉ざされたからか、日が昇る東方へ更に長い旅を続け5万年前には東アジアに到着し、つづく4万年前ごろには日本列島に渡来して、やがて縄文人として生活するようになったのである。

#### サピエンス 日本列島へ来る

関東の武蔵野台地の旧石器時代の遺跡は550箇所もあるが、3万8000年前に及ぶものはなく、3万5000年前以降に人口が急増するパターンが読み取れ、この時代

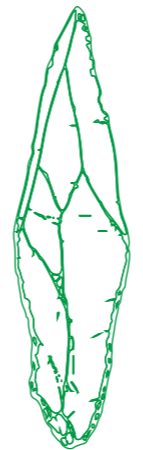
の渡来を示唆している。

中東とヨーロッパにはネアンデルタール人（旧人）が住んでいた。その他ユーラシア大陸の大半にはすでに他の数種類の人類が定住していた。かつては、ホモ・エレクトスからネアンデルタール人が誕生し、ネアンデルタール人がホモ・サピエンスに進化したと一直線の系統図に並べて考えられた。

しかし、実際は劇的な「交替劇」があったのである。そのなかで、ネアンデルタール人とサピエンスとの間で演じられた交替劇は最大の謎とされる。交替劇で一体何が起きたのか。何が両者の命運を分けたのか。その顛末は、旧人として消えていくことになったネアンデルタール人と、世界唯一の人類種となるサピエンスが生き残ったことだった。

日本列島に到着したサピエンスは、ここでも先住民と遭遇した。であるとすれば、生存戦略上の問題解決に成功してきたサピエンスは、ここでも能力の違いを発揮し、先住民を絶滅に追い込んだことであろう。新たな種に進化しないまま劇的な変化を遂げ、定住化・新たな食糧生産（獲得）・集落の組織化をなす縄文時代を創っていったのである。

今回から、「縄文の小径」と題しコラムを担当することとなった。力足らずで険路を進む思いだが、日本人の源流・原型である縄文時代や縄文文化を分かりやすく伝えていくことができれば幸いである（遊行子）



ナイフ形石器（後期旧石器時代）  
下ノ平E遺跡出土